

令和 4 年 6 月 24 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15H01873

研究課題名（和文）日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究

研究課題名（英文）The Study on Formation of the Japanese Textile Collection and the Establishment of its Values in the Japanese Art History

研究代表者

小山 弓弦葉（OYAMA, YUZURUHA）

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・室長

研究者番号：10356272

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,100,000円

研究成果の概要（和文）：従来の染織史研究者の間では研究対象とならなかった江戸時代以降の袷類・裂類を中心に詳細な調査を行った。その結果、京都の野村正治郎、大阪の山中商会といった日本の古美術商が、大正期から昭和初期にかけて、日本国内だけではなく、特にアメリカに日本染織を集中的に輸出していたことが判明した。ヨーロッパよりも遅れて始まったアメリカ国内におけるジャポニスムの動向に乗じて、袷や裂類が室内装飾品としてコレクターの蒐集対象となっていたことが調査によって明らかとなった。調査の詳細なデータは所蔵機関別にリスト化し、研究成果は、研究代表者、研究分担者、研究協力者8名による論文にまとめ、調査研究報告書として出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

染織史研究者の間では研究対象とならなかった江戸時代以降の袷類・裂類を中心に国内外の各所蔵先において日本染織コレクションの全容が分かる調査を行い、その価値付けをしたことによって、所蔵者側にも、日本染織コレクションの歴史的・文化的意義を知らしめる機会となった。本調査研究によって、美術史に位置付けられる染織文化史研究が確立される契機となった、大正期から昭和初期の日本染織文化財の価値観の形成過程が解明された。現状においては、日本染織の価値が理解されないままに離散する危機のある日本およびアメリカのコレクションに、その来歴や価値に関する歴史的・文化的な意味付けがなされたことは極めて有意義である。

研究成果の概要（英文）：A detailed survey was conducted focusing on kesa and sarees from the Edo period onward, which have not been the subject of research by conventional dyeing and weaving researchers. As a result, we found that Japanese antique dealers such as Nomura Shojiro in Kyoto and Yamanaka Company in Osaka intensively exported Japanese textiles not only to Japan but also to the U.S. in particular during the Taisho and early Showa periods. The survey revealed that kesa (monk's robes) and textile fragments were collected by collectors as interior decorative objects, taking advantage of the Japonisme trend in the U.S., which started later than in Europe. Detailed data from the survey were listed by collecting institution, and the results of the research were summarized in a paper by the principal investigator and seven research collaborators, which was published as a research report.

研究分野：日本東洋染織史

キーワード：美術史 野村正治郎 山中商会 アメリカ 日本染織 ジャポニスム 袷 日本近代

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本染織の蒐集は、絵画や彫刻といった普段私たちがイメージする古美術品とは異なり、近代以降、日本染織が古美術として価値付けられることによって始まった。明治期以前、価値のある日本染織として蒐集の対象となったのは、名物裂や更紗、法隆寺や正倉院にまつわる上代裂のみであった。ところが、明治期半ば頃から、袷袋・小袖・能装束など安土桃山時代から江戸時代にかけての日本染織を蒐集するコレクターが現れた。このような日本染織コレクションの動向は、蒐集家の間で、日本染織に対する新たな価値観が生まれつつあったことを意味している。しかし、国内外の機関で所蔵される日本染織文化財の多くは、現在、調査研究や活用がなされることなく、収蔵庫に眠っている状況にある。

これら近代に成立した日本染織コレクションを網羅的に調査し、日本国内外のコレクションの相互関係を有機的に関連付けることにより、近代以前は古美術品として蒐集対象になっていなかった日本の染織工芸の意義と役割を実証し、その価値を明確に位置付け、死蔵する日本染織文化財に改めて意味づけをし、活用の方向性を示す必要性があった。

2. 研究の目的

本研究は、日本国内外の機関や個人コレクターが所蔵する日本染織コレクションの蒐集の経緯や来歴、構成内容を網羅的に調査し、近代以前は蒐集対象になっていなかった日本染織が古美術品としての価値観を形成していく過程を考察する。現代、美術史の一分野として位置づけられている染織文化史研究が、どのような価値観を基盤として確立されたかについては、近代における日本内外の日本染織の売買や輸出といった動向を、古美術商やコレクターを追うことによって明らかとなる。その一方で、日本内外の日本染織コレクションはその価値が理解されないままに、離散する危機にある。所在の明らかなコレクションについて調査内容を記録し、論文や研究発表を通してその文化的価値を周知する機会とした。

3. 研究の方法

日本国内外における研究協力者の情報をもとに、研究代表者・研究分担者・連携研究者が中心となり、研究協力者の協力を得ながら調査チームを組成し、年に3~5ヶ所を目標に、日本国内外に所在する日本染織コレクションを調査した。調査チームは複数で同行し、計測・来歴の調査・記録・写真撮影など分担し、1回の調査で50件あまりに及ぶ染織調査の効率化を計った。調査データは、各自が整理した上で、調査補助者によってパソコン入力し、日本染織コレクションの来歴や分類による傾向が明確になるようデータの集積を行った。集積された調査データは調査チームの確認を経て、論文や研究発表としてまとめ、公表した。

4. 研究成果

本研究は、日本国内外の機関や個人コレクターが所蔵する日本染織コレクション蒐集の経緯や来歴、構成内容を網羅的に調査し、近代以前は蒐集されることがなかった日本染織が古美術品としての価値観を形成していく過程について考察した。染織史研究者の間では研究対象とならなかった江戸時代以降の袷袋打敷類、錦や帯といった裂類を中心に、各所蔵先において染織コレクションの全容が分かる調査を行い、近代における日本国内外の日本染織の動向について詳細な調査を行ってきた。その結果、日本における古美術商の中でも、京都の野村正治郎、大阪の山中商会が主となって、大正期から昭和初期にかけて、小袖、袷袋、能装束といった、江戸時代を中心とする日本染織を日本国内だけではなく、海外、特にアメリカ国内に集中的に輸出していたことが判明した。ヨーロッパよりも遅れて始まったアメリカ国内におけるジャポニスムの動向に乗じて、アメリカにおける古日本染織が室内装飾品としてコレクターの蒐集対象となっていたことが調査によって明らかとなった。

また、各機関が所蔵する日本染織コレクションの内訳をみることによって、蒐集された時期や場所による、日本染織の分類の傾向がうかがえる。【表1】に示したのは、本研究課題において調査した、各機関に所蔵される日本染織の内訳である。この表で明らかな点は、明治維新前に蒐集されたシーボルト・コレクションやブロンホフ・コレクションは、日本の小袖や武家装束など服飾類が中心となっており、袷袋や打敷といった染織品はまったく見られない。一方、明治維新以後にアメリカで蒐集された日本染織コレクションには、袷袋や打敷が少なからず含まれている。さらに、明治維新以降に蒐集された岡田三郎助コレクションや長尾欣弥・よね夫妻のコレクションを見ると、やはり、袷袋や打敷といった仏教染織が含まれない傾向が明確に表れている。

そのような傾向が生まれた背景には、アメリカにおけるジャポニスムの傾向と、それに乗じて海外進出を果たし、日本の美術品を数多くアメリカに輸出した古美術商の存在がある。それが、【表1】にも示されている、野村正治郎と山中商会である。【表1】に示されたベラ・メイブリーやシャルロット・メイブリーといったコレクターも、その日本染織コレクションの多くを野村正治郎から購入していたことが、調査によって明らかとなった。

【表1 日本染織コレクション調査作品一覧】

所蔵機関	取得先	小袖服飾類	小袖裂	袷打敷類	裂類	その他
ロサンゼルス・カウンティ美術館	ベラ・メイブリー寄贈	4	4	1	5	2
サンフランシスコ・ヤング美術館	シャルロット・メイブリー寄贈	1	-	8	7	5
メトロポリタン美術館	野村正治郎より入手	3	-	61	-	-
ボストン美術館	山中商会より入手	-	6	-	15	3
	野村正治郎より入手	-	-	5	-	-
ハーバード大学美術館	野村正治郎より購入	1	-	-	-	-
フリーア・ギャラリー	山中商会より入手	-	-	29	5	4
ライデン国立民族学博物館	シーボルト・コレクション	18	-	-	-	26
	ブロンホフ・コレクション	30	-	-	-	4
J.フロントリテイリング史料館	岡田三郎助コレクション	65	-	-	-	2
女子美術大学美術館	長尾欣弥・よねコレクション	74	-	-	3	18

アメリカにおけるジャポニズムのコレクターの志向に袷や打敷といった特殊な日本染織が数多く含まれる理由についても詳細な調査を行い、調査に参加した研究者によって明らかにされた。

調査の詳細な調査データについては、調査を完了したコレクション別にリスト化し、調査研究報告書として編集し出版した。また、調査研究の成果については、本調査研究に参加した研究代表者、研究分担者、研究協力者8名による論文にまとめ、調査研究報告書に掲載した。本調査研究によって、美術史の一分野として位置付けられる染織文化史研究が確立される契機となった、大正期から昭和初期の国内外における古日本染織の価値観の形成過程が解明された。現状においては、日本染織の価値が理解されないままに離散する危機のある日本およびアメリカのコレクションに、その経緯や価値に関する歴史的・文化的な意味付けがなされたことは極めて有意義である。

その一方で、本研究課題を進める中、最終年度で新型コロナウイルスの感染が拡大し、本研究課題で終了する予定だったロードアイランド・デザイン・スクール美術館に所蔵される袷・打敷類、コレクターであったルーシー・アルドリッチの購入歴を示す資料の調査などを完全に終了させることができなかったため、今後の課題が遺された。また、本調査を進める中で、今回、調査機関に含まれていないアメリカの美術館、ヨーロッパ各国の美術館・博物館においても、明治期以降、第2次世界大戦前に蒐集された日本染織コレクションが存在するという新たな情報を得た。今後、アメリカにおける日本染織コレクションの傾向をより明らかにし、さらに、ヨーロッパで蒐集された日本染織コレクションの傾向を見出すことで、近代における美術品としての日本染織がどのような価値観をもって当時の社会に受容されていったのかを追究したい。また、近代における日本染織コレクションの文化的・歴史的意義について調査を継続し、研究を深めていくための新たな調査目標が得られたことも、本研究課題における成果であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三田覚之	4. 巻 1
2. 論文標題 法隆寺裂に対する伝承の生成と近世における作品流出について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木佳美	4. 巻 1
2. 論文標題 日本美術史形成期における染織品の位置づけ—明治5年から30年代までの官立博物館の動向を中心に—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤良子	4. 巻 1
2. 論文標題 旧長尾染織コレクションについて—昭和初期の美術品コレクターが遺したもの—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荘加直子	4. 巻 1
2. 論文標題 「松坂屋コレクション」の成り立ち—呉服商から百貨店への業態転換と収集活動—	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田和人	4. 巻 1
2. 論文標題 野村正治郎とアメリカ人の顧客－ルーシー・トルーマン・アルドリッチの場合－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 83-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中淑江	4. 巻 1
2. 論文標題 在外コレクションに見られる縫製と形状の特徴について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 109-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 マリサ・リンネ	4. 巻 1
2. 論文標題 京都・野村正治郎古美術商の芳名帳 (ゲストブック) から見た大正期における外国人染織コレクター	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 131-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山弓弦葉	4. 巻 1
2. 論文標題 染織ディーラーとしての山中商会－アメリカにおける活動を中心に－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	6. 最初と最後の頁 145-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山弓弦葉	4. 巻 59
2. 論文標題 ヤボンセ・ロッカーヨーロッパに渡った「日本着物」ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際服飾学会誌	6. 最初と最後の頁 4-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田和人	4. 巻 674
2. 論文標題 野村正治郎の初期の活動 - 刺繍貿易商から骨董商へー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 MUSEUM 東京国立博物館研究誌	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山弓弦葉	4. 巻 505
2. 論文標題 染織コレクションの歴史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 目の眼	6. 最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荘加直子	4. 巻 24
2. 論文標題 明治時代の染織・服飾研究の成立 「集古会」の活動を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本女子大学大学院紀要 家政学研究科・人間生活学研究科	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荘加直子	4. 巻 666号
2. 論文標題 「慶長小袖」の所蔵者の変遷と染織品コレクター田村春暁とのかかわり 重要文化財「小袖 箔風景四季 花文」(文化庁所蔵)を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京国立博物館研究誌 MUSEUM	6. 最初と最後の頁 pp.7-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荘加直子	4. 巻 23号
2. 論文標題 「慶長小袖」に関する一考察 - 江戸時代の呼称といわれる「地無」と「繡箔」という言葉について -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本女子大学大学院紀要家政学研究科・人間生活学研究科	6. 最初と最後の頁 pp61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 5件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 小山弓弦葉
2. 発表標題 ヤボンセ・ロッカーヨーロッパに渡った「日本着物」ー
3. 学会等名 国際服飾学会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 リンネ・マリサ
2. 発表標題 New Discoveries among Textiles in the Siebold Collection
3. 学会等名 12th Siebold Conference Leiden(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小山弓弦葉
2. 発表標題 About Siebold's Kamishimo
3. 学会等名 12th Siebold Conference Leiden (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 佳美 (福井市立郷土歴史博物館)
2. 発表標題 大名家伝来染織品の特徴とその美術史上の位置づけ
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高木 結美 (朝日新聞社)
2. 発表標題 呉服商「大彦」の近世小袖コレクション - 明治期における染織品蒐集について
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須藤 良子 (大妻女子大学)
2. 発表標題 旧長尾美術館所蔵の染織品について
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荘加 直子 (松坂屋美術館)
2. 発表標題 松坂屋コレクションの成り立ちについて - 岸本景春旧蔵品を中心に
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小山 弓弦葉 (東京国立博物館)
2. 発表標題 山中商會が扱った古美術品としての日本染織 - アメリカにおける活動を中心に
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 澤田 和人 (国立歴史民俗博物館)
2. 発表標題 野村正治郎の初期の活動 - 刺繍貿易商から骨董商へ
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 マリサ リンネ (京都国立博物館)
2. 発表標題 アメリカに渡った知られざる日本染織品 - 袷袋を中心に
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中 淑江 (共立女子大学)
2. 発表標題 アメリカのコレクターによる日本染織の使用用途について - その形状と縫製の特徴から
3. 学会等名 公開研究会 古美術品としての日本染織コレクションの形成
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荘加直子
2. 発表標題 「慶長小袖」に関する一考察 重要文化財 染分綾子地御所車花鳥文様繡箔小袖」を中心に」
3. 学会等名 国際服飾学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 澤田和人
2. 発表標題 ロイトリンゲン大学所蔵ベルツ・コレクションの染織品
3. 学会等名 ロイトリンゲン大学研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 澤田和人
2. 発表標題 メトロポリタン美術館所蔵の野村正治郎に関する染織品
3. 学会等名 メトロポリタン美術館研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小山弓弦葉
2. 発表標題 「大彦」コレクションについて
3. 学会等名 東京国立博物館月例講演会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小山弓弦葉
2. 発表標題 染織祭復元時代衣装が語り継ぐ日本の染織
3. 学会等名 展覧会「日本染織絵巻」展講演会（招待講演）
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Josef Kreiner (ed.)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Bonn, Bier'she Velagsanstalt	5. 総ページ数 365
3. 書名 Japanese Collections in European Museums V	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	田中 淑江 (TANAKA YOSHIE) (70636456)	共立女子大学・家政学部・教授 (32608)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	澤田 和人 (SAWADA KAZUTO) (80353374)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	リンネ マリサ (RINNE MALISSA)	京都国立博物館・企画課国際交流室・専門職員	
研究協力者	須藤 良子 (SUDO RYOKO)	大妻女子大学・家政学部・准教授	
研究協力者	荘加 直子 (SHOKA NAOKO)	松坂屋美術館・学芸員	
研究協力者	三田 寛之 (MITA KAKUYUKI)	奈良国立博物館・学芸課工芸室・主任研究員	
研究協力者	佐々木 佳美 (SASAKI YOSHIMI)	福井市立郷土歴史博物館・学芸課・学芸員	
研究協力者	高木 結美 (TAKAGI YUMI)	国立文化財活用センター・企画課・専門職員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------